

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	日本語表現
科目基礎情報					
科目番号	1412	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合科学科	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	1		
教科書/教材	教科書: 「大学生のための日本語表現トレーニング: スキルアップ編」 (三省堂) 適宜補助プリント、事前学習動画 を併用する。				
担当教員	佐藤 元紀, 翁長 志保子				
到達目標					
【到達目標】 1. 形式に則って手紙や実用文を書くことができる。 2. 場面にふさわしい言葉遣いや敬語を使うことができる。 3. 自己を客観的に見る目を養い、自分について表現力豊かに話すことができる。 4. データを分析・考察し、その結果を効果的に表現できる。 5. 文章の構成内容を適確にとらえ、自分の意見を論理的に述べることができる。 6. 課題について自ら考えたことを複数名で討議し、発表することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	形式をふまえた上で、豊かな表現力を身につけて手紙や実用文を書くことができる。	形式に則って手紙や実用文を書くことができる。	形式に則って手紙や実用文を書くことが十分にできていない。		
評価項目2	場面にふさわしい言葉遣いや敬語を使い、自分について表現力豊かに話すことができる。	場面にふさわしい言葉遣いや敬語を使い、自分について話すことができる。	場面にふさわしい言葉遣いや敬語を十分に用いることができない。		
評価項目3	データを分析・考察し、その結果を論理的にわかりやすく表現することができる。	データを分析・考察し、その結果を自分の言葉でまとめることができる。	データを分析・考察し、その結果を十分に表現することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
JABEE (E)					
教育方法等					
概要	日本語で効果的に書く/話すために必要な技術を習得する。特に、スピーチやエントリーシートなどへの実践的な取り組みを通して、日本語による自己アピール力を身につける。国語Ⅰ～国語Ⅲで得た基礎知識・スキルを自ら発展させ、社会生活を営む上で必要な日本語表現力を養う。				
授業の進め方・方法	テキスト並びに補助プリント・動画を使用して事前に自ら学習し、その内容をふまえて、対面授業時には毎時演習を行う。グループ演習では相互評価を行い、学習者自ら問題点を発見し、互いに高め合うことを目指す。				
注意点	試験の成績を60%、平素の学習状況等(スピーチ・演習問題への取り組みや提出の状況を含む)を40%の割合で総合的に評価する。技術者が身につけるべき専門基礎として、国語表現力の修得の程度を評価する。学年の評価は前学期と後学期の評価の平均とする。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	導入[1]: 授業の目標・年間予定について。自己紹介シートの作成	「大好きマップ」を用いて自己紹介シートを記入し、自分を客観的に見る視点を獲得する	
		2週	自己PR入門[2-3]: 演習を通じて話し手を導く「聴く」技術を発見し、聴き取った情報から友人の紹介文を作成する	自己紹介シートをもとにして、積極的傾聴法の演習を行い、よい聴き方とは何かを理解する ノンバーバル言語について理解する	
		3週	自己PR入門[2-3]: 演習を通じて話し手を導く「聴く」技術を発見し、聴き取った情報から友人の紹介文を作成する	聴き取った情報をもとに、友人紹介文を作成することができる	
		4週	文章を構成するⅠ[4-5]: 日本語の文章構成に関する法則を発見する	日本語の文章を分解し、その構成(主語・述語)を取り出すことができる	
		5週	文章を構成するⅠ[4-5]: 日本語の文章構成に関する法則を発見する	日本語の文章を分解し、その構成(主語・述語)を理解することができる	
		6週	文章を校正するⅠ[6-7]: 日本語の文章構成に則った文章を作成し、グループで検討する	作成した文章の不自然な点等を指摘し、説明することができる	
		7週	文章を校正するⅠ[6-7]: 日本語の文章構成に則った文章を作成し、グループで検討する	誤った文章を日本語の文章構成に則した正しい形に改めることができる	
		8週	敬語の使い方[8-10]: 敬語の種類と正しい使い方を学ぶ	敬語表現を理解することができる	
	2ndQ	9週	敬語の使い方[8-10]: 敬語の種類と正しい使い方を学ぶ	誤った敬語表現を正すことができる	
		10週	敬語の使い方[8-10]: 敬語の種類と正しい使い方を学ぶ	場面に応じた敬語表現を、正しく使うことができる	
		11週	実用的なメール文章[11-12]: 5W1Hを意識した伝わりやすいメール文章を書く	伝わりやすいメール文章の構成を理解することができる	
		12週	実用的なメール文章[11-12]: 5W1Hを意識して伝わりやすいメール文章を書く	正しい敬語を用いながら、分かりやすいメール文章を書くことができる	
		13週	文章を構成するⅡ[13-14]: 日本語の文章構成に関する法則を発見する	助詞(「は」や「が」など)の働き・使い分けを集めてきたサンプルから発見し、その作用を理解することができる	
		14週	文章を校正するⅡ[13-14]: 日本語の文章構成に則った文章を作成し、グループで検討する	助詞の作用をまとめて理解し、実際の文章で的確に使用することができる	
		15週	総復習[15]: 前学期に習得した知識・スキルについて説明する	既習の知識やスキルを活用し、前学期学習内容の効果をまとめることができる	
		16週			

後期	3rdQ	1週	グループ・ディスカッション [1-10]: 企画プレゼンテーション。発表・相互評価を行う	グループ毎にアイスブレイクを行い、課題を理解し、自らの意見をまとめることができる
		2週	グループ・ディスカッション [1-10]: 企画プレゼンテーション。発表・相互評価を行う	課題について、グループのメンバーの意見を聴き、さらにより内容にするよう議論を進めることができる
		3週	グループ・ディスカッション [1-10]: 企画プレゼンテーション。発表・相互評価を行う	議論をもとに、グループの意見をまとめ、発表の構成を工夫することができる
		4週	グループ・ディスカッション [1-10]: 企画プレゼンテーション。発表・相互評価を行う	効果的なプレゼンテーションを行うための資料作成を目指し、調査することができる
		5週	グループ・ディスカッション [1-10]: 企画プレゼンテーション。発表・相互評価を行う	効果的なプレゼンテーションを行うための資料作成を目指し、調査することができる
		6週	グループ・ディスカッション [1-10]: 企画プレゼンテーション。発表・相互評価を行う	発表時間などに留意し、決められた時間内で効果的な発表ができるように資料を作成することができる
		7週	グループ・ディスカッション [1-10]: 企画プレゼンテーション。発表・相互評価を行う	発表時間などに留意し、決められた時間内で効果的な発表ができるように資料を作成することができる
		8週	グループ・ディスカッション [1-10]: 企画プレゼンテーション。発表・相互評価を行う	作成資料をもとにプレゼンテーションを行い、相互評価を行うことができる
	4thQ	9週	グループ・ディスカッション [1-10]: 企画プレゼンテーション。発表・相互評価を行う	作成資料をもとにプレゼンテーションを行い、相互評価を行うことができる
		10週	グループ・ディスカッション [1-10]: 企画プレゼンテーション。発表・相互評価を行う	作成資料をもとにプレゼンテーションを行い、相互評価を行うことができる
		11週	文章を構成するⅢ [13-14]: 日本語の文章構成に関する法則を発見する	サンプルから副詞に関する法則を導き出すことができる
		12週	文章を構成するⅢ [13-14]: 日本語の文章構成に則った文章を作成し、グループで検討する	副詞の呼応を理解し、文章表現のなかで正しく使用することができる
		13週	エントリーシート・履歴書の作成 [24-25]: 効果的なP R文の作成技術を身につける	履歴書の形式を学び、効果的なP R文の作成技術を理解する
		14週	エントリーシート・履歴書の作成 [11-12]: 効果的なP R文の作成技術を身につける	自己分析をもとに、効果的なP R文を作成することができる
		15週	総復習 [15]: 後学期に習得した知識・スキルについて説明する	既習の知識やスキルを活用し、後学期学習内容の効果をまとめることができる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	前4,前5,前13,後11,後12
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	3	前4,前5,前6,前7
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	前4,前5,前6,前7
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前11,前12,後13,後14
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前11,前12,後13,後14
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前4,前5,前6,前7,前13,前14,後11,後12
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前1,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後11,後12,後13,後14,後15
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前1,前2,前3,後3,後4,後5,後6,後7
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前2,後2,後3,後4,後5,後6,後7
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前2,後7,後8,後9,後13,後14

			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前6,前7,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前2,前3,後8,後9,後10

評価割合

	試験	発表	相互評価	事前学習	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	5	5	5	5	100
基礎的能力	30	10	5	5	5	5	60
専門的能力	15	5	0	0	0	0	20
分野横断的能力	15	5	0	0	0	0	20

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	哲学
科目基礎情報					
科目番号	1422	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合科学科	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	1		
教科書/教材	ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタイン著『論理哲学論考』（岩波文庫）				
担当教員	佐々木 正寿				
到達目標					
【到達目標】 現代哲学の名著のひとつである『論理哲学論考』（ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタイン）を精読することをつうじて、「哲学する」という人間に固有のあり方について学ぶ（知る）と同時に、世界における人間のあり方について深く思索する契機を得る。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	「哲学する」という態度の実例をテキストのうちに読み取るとともに、それをテキストに即して実践することができる。	「哲学する」という態度の実例をテキストのうちに読み取ることができる。	「哲学する」という態度をテキストのうちに読み取ることができない。		
評価項目2	人間存在について思索する契機を獲得し、自ら思索を深めることができる。	テキストの読解をつうじて、人間存在について思索する契機を獲得することができる。	人間存在について思索する契機を見出すことができない。		
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標【建設工学教育プログラム】(A) JABEE (E) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(a) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(b)					
教育方法等					
概要	「哲学する(philosophieren)」ということ、たとえば誰でも自ら実践することを目標とする。今年度は、現代哲学の名著のひとつである『論理哲学論考』（ヴィトゲンシュタイン）を学生諸君とともに読んでゆく（テキストとしては日本語訳（岩波文庫）を用いる）。				
授業の進め方・方法	テキストの著者および背景等について簡潔に解説したのち、学生諸君とともにテキストを読解してゆく。学生諸君には、テキストの内容（論点）を部分ごとにまとめることを求め、また、思索すべき事柄をめぐって議論するよう促す。				
注意点	原則として定期試験にもとづいて評価する（成績評価に占める定期試験の割合：ca. 100%）。学年の評価は前学期と後学期の評価の平均とする。哲学における《思索の事柄》に対して主体的に取り組んでいるかどうかについて評価する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	哲学への誘い。受講に関する留意点。	「哲学」という学問の特質について知る。	
		2週	現代哲学の主潮流の概略とヴィトゲンシュタインの思索について。	現代哲学の主要な動向の概略を知る。ヴィトゲンシュタインに関する基本事項を知る。	
		3週	現代哲学の主潮流の概略とヴィトゲンシュタインの思索について。	現代哲学の主要な動向の概略を知る。ヴィトゲンシュタインに関する基本事項を知る。	
		4週	現代哲学の主潮流の概略とヴィトゲンシュタインの思索について。	現代哲学の主要な動向の概略を知る。ヴィトゲンシュタインに関する基本事項を知る。	
		5週	『論理哲学論考』（ヴィトゲンシュタイン）の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。	
		6週	『論理哲学論考』（ヴィトゲンシュタイン）の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。	
		7週	『論理哲学論考』（ヴィトゲンシュタイン）の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。	
		8週	『論理哲学論考』（ヴィトゲンシュタイン）の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。	
	2ndQ	9週	『論理哲学論考』（ヴィトゲンシュタイン）の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。	
		10週	『論理哲学論考』（ヴィトゲンシュタイン）の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。	
		11週	『論理哲学論考』（ヴィトゲンシュタイン）の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。	
		12週	『論理哲学論考』（ヴィトゲンシュタイン）の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。	
		13週	『論理哲学論考』（ヴィトゲンシュタイン）の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。	
		14週	(前学期試験)		
		15週	(答案返却)		
		16週			
後期	3rdQ	1週	『論理哲学論考』（ヴィトゲンシュタイン）の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。	
		2週	『論理哲学論考』（ヴィトゲンシュタイン）の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。	
		3週	『論理哲学論考』（ヴィトゲンシュタイン）の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。	
		4週	『論理哲学論考』（ヴィトゲンシュタイン）の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。	

4thQ	5週	『論理哲学論考』(ヴィトゲンシュタイン)の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。
	6週	『論理哲学論考』(ヴィトゲンシュタイン)の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。
	7週	『論理哲学論考』(ヴィトゲンシュタイン)の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。
	8週	『論理哲学論考』(ヴィトゲンシュタイン)の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。
	9週	『論理哲学論考』(ヴィトゲンシュタイン)の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。
	10週	『論理哲学論考』(ヴィトゲンシュタイン)の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。
	11週	『論理哲学論考』(ヴィトゲンシュタイン)の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。
	12週	『論理哲学論考』(ヴィトゲンシュタイン)の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。
	13週	『論理哲学論考』(ヴィトゲンシュタイン)の精読。	テキストを丹念に読み、思索内容を理解するよう努めるとともに、哲学的思索のあり方を知る。
	14週	(学年末試験)	
	15週	(答案返却)	
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3	
			技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	環境地理学
科目基礎情報					
科目番号	1428	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合科学科	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	1		
教科書/教材	教科書: 富田豊他『環境科学入門』(学術図書出版社)、教材: 配布資料他				
担当教員	池谷 江理子				
到達目標					
【到達目標】					
1. 地球環境の形成の概略を理解できる。					
2. 地球温暖化, オゾン層破壊の実態と背景, 対策について把握できる。					
3. 生態系と生物多様性の破壊と保全に向けての取り組みについて説明できる。					
4. 地球環境問題を地球と人間との関わりから理解し, 課題を考えることができる。					
5. 地球と人類の共存条件について議論することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	環境地理学の専門用語の意味を理解し、適切に説明できる。	環境地理学の基礎的な用語の意味を理解し適切に説明できる。	環境地理学の基礎的な用語を理解できず、適切に説明できない。		
評価項目2	地球環境に関する専門的知識を理解し、適切に説明できる。	地球環境に関する基礎的知識を理解でき、適切に説明できる。	地球環境に関する基礎的知識が理解できず、適切に説明できない。		
評価項目3	地球環境問題に関する専門的知識を理解し、適切に説明できる。	地球環境問題に関する基礎的知識を理解し、適切に説明できる。	地球環境問題に関する基礎的知識が理解できず、適切に説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標【建設工学教育プログラム】(A) JABEE (E) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(a) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(b)					
教育方法等					
概要	学生諸君が地球環境と人間の関わりについて地理的視野を身につけ、将来、技術者として地球環境を守り、環境と共存しうる技術を担うための基礎知識とすることを目的としています。具体的には、地球環境問題のうち、地球温暖化、オゾン層破壊、生物多様性の減少など重要かつ喫緊の問題を取り上げ、実態と背景、解決に向けての取り組みと課題などについて学びます。				
授業の進め方・方法	基本的には講義形式で行います。プリント配布、プロジェクター利用により理解を促進します。発問・ワークショップを取り入れ、双方向授業を目指します。				
注意点	試験の成績を80%、平素の学習状況等(課題・レポート等を含む)を20%の割合で総合的に評価する。学年の評価は前学期と後学期の評価の平均とする。技術者が身につけるべき専門基礎として、到達目標に対する達成度を試験等において評価する。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバスの説明、地球環境と地球環境問題の現在。	授業計画概要を理解地球環境問題の重要性に気付く。	
		2週	1、環境問題を考える (1) 第二次世界大戦前の公害問題 足尾鉍毒事件と足尾銅山煙害事件	第二次世界大戦前における鉍山の公害の特徴と背景を理解している。	
		3週	1、環境問題を考える (2) 第二次世界大戦後の公害問題: 四大公害事件	四大公害事件から得られた教訓とその後の取り組みについて理解している。	
		4週	1、環境問題を考える (3) 現代の環境事件: 福島原子力発電所事故	東日本大震災による環境事故の実態と課題の概要を理解している。	
		5週	2、地球環境の形成 (1) 太陽系の形成と地球	太陽の誕生と太陽系の成り立ちを理解している。	
		6週	2、地球環境の形成 (2) 誕生時の地球と海の形成	誕生当初の地球の大気、地表と海の形成を理解している。	
		7週	2、地球環境の形成 (3) 生命の発生と大気組成の変化	生命の発生と大気組成の推移を理解している。	
		8週	2、地球環境の形成 (4) オゾン層の生成と生命の進化	酸素濃度の上昇とオゾン層の形成と生命の進化について理解している。	
	2ndQ	9週	2、地球環境の形成 (5) 他惑星と比較した地球環境の特性	地球の惑星としての特徴を理解している。	
		10週	3、地球温暖化問題 (1) 地球温暖化の実態	地球温暖化の実態を統計資料等に基づき説明できる。	
		11週	3、地球温暖化問題 (2) 温暖化のメカニズムと温室効果ガス	地球温暖化の仕組みと温室効果ガスの役割について説明できる。	
		12週	3、地球温暖化問題 (3) 温暖化の原因物質 ①二酸化炭素 ②メタン	二酸化炭素とメタンの温室効果ガスとしての特徴及び発生源を説明できる。	
		13週	3、地球温暖化問題 (3) 温暖化の原因物質 ③亜酸化窒素 ④フロン	亜酸化窒素及びフロンの特徴、温室効果ガスとしての実態、発生源について説明できる。	
		14週	3、地球温暖化問題 (4) 地球温暖化の影響 ①海面上昇 ②気象と食糧 ③生態系 ④健康	海面高度、気象や食糧、生態系や健康に及ぼす温暖化の影響を説明できる。	
		15週	前期期末試験	3章(4)節までの内容を理解し説明できる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	3、地球温暖化問題 (5) 国際的取り組み ①IPCC ②京都議定書	気候変動に対する国際組織、取り組み内容、条約について説明できる。	
		2週	3、地球温暖化問題 (6) 国際的取り組み ③パリ協定 ④日本の取り組み	パリ協定と日本等の取り組みについて説明できる。	
		3週	4、オゾン層の破壊 (1) オゾン層の形成とその役割	オゾン層の形成と機能について説明できる。	

4thQ	4週	4、オゾン層の破壊 (2) オゾンホールとオゾン層破壊	オゾンホールとオゾン層破壊について説明できる。
	5週	4、オゾン層の破壊 (3) オゾン層破壊物質とメカニズム	オゾン層を破壊する物質と破壊の仕組みを説明できる。
	6週	4、オゾン層の破壊 (4) オゾン層保全に向けた世界の取り組み	オゾン層破壊防止を目指す条約の内容について説明できる。
	7週	4、オゾン層の破壊 (5) オゾン層保全に向けた日本の取り組み	オゾン層保全に向けた取り組み実態を説明できる。
	8週	5、生態系と生物多様性 (1) 生態系とその破壊	生態系の定義及び生態系の破壊進行について説明できる。
	9週	5、生態系と生物多様性 (2) レッド・データ・ブックと絶滅危惧種	レッド・データ・ブックの発行と目的、内容について説明できる。
	10週	5、生態系と生物多様性 (3) 生物多様性の減少	生物の多様性減少の内容を説明できる。
	11週	5、生態系と生物多様性 (4) 種の絶滅と保存	生物種の絶滅の原因と種の保存のために必要な要件について説明できる。
	12週	5、生態系と生物多様性 (5) 生物多様性を守る世界と日本の取り組み	生物多様性を維持するための取り組み内容について説明できる。
	13週	5、生態系と生物多様性 (6) 生態系の破壊を防ぐには？	生態系を破壊から防ぎ維持するための方策について説明できる。
	14週	6、(総括) 地球環境問題の改善に必要とされているものは何か？ —持続可能な社会を目指して—	授業内容を踏まえ、地球環境の改善のために必要な方策について討論できる。
	15週	学年末試験	3章(5)節から6章までの内容を理解し、説明できる
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	15	5	100
基礎的能力	80	0	0	0	15	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	保健・体育IV
科目基礎情報					
科目番号	1451	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	実習	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合科学科	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	参考書: 「COLOR WIDE SPORTS」 (大修館書店) 選択種目別指導書・学習記録表 (高知高専体育科作成資料)				
担当教員	市村 梨乃, 澤本 章一, 新田 忠彦				
到達目標					
【到達目標】 技術, 練習方法, ルール審判方法について種目別の学習資料を参考に学習し, 運動の特性を理解させ, 各自が課題を持って練習計画を立て実践することにより, 自己学習能力を高める。学習記録用紙を作成し, 毎時間の実践と課題を記録する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	遅刻、欠席、見学をすることなく、全体の中心となり積極的に授業に取り組む。	遅刻、欠席、見学をすることなく、授業に取り組む。	遅刻、欠席、見学が多く、授業に参加をしない。		
評価項目2	技術が標準的なレベルに到達し、ゲームに活かすことができ、仲間に教える事ができる。	技術が標準的なレベルに到達し、ゲームに活かすことができる。	技術が標準的なレベルに到達できるように練習に取り組まない。		
評価項目3	グループ活動時に決められた練習、課題に取り組み、プラス仲間に指示を出したりアイデアを出すことができる。	グループ活動時に、決められた練習、課題に取り組む事ができる。	グループ活動時に参加をしない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	卓球、バドミントン、テニス、ソフトテニスから前期1種目、後期1種目選択する。生涯にわたってスポーツを計画的・継続的に楽しみ、スポーツを生活の重要な内容として取り入れていくために、個人の興味・関心や能力・適性などに基づき、種目を選択する。自主的な運動の実践により、健康でスポーツを楽しむことの出来る能力、仲間と協力しリーダー力を身に付けさせる。				
授業の進め方・方法	各種目、基本的な技術や練習方法を伝え、個々もしくはグループで仲間と協力しながら練習に取り組み、ゲームを展開していく。ルールなどについてはプリントなどを配布したり、DVDを見せることにより、理解できるようにさせる。				
注意点	教材毎にスキルテスト及び記録測定を実施し、評価する。学習記録表への記載内容も、評価に入れる。実技の成績を50%、平素の学習状況等を50%の割合で総合的に評価する。学期毎の評価は中間と期末の各期間の評価の平均、学年の評価は前学期と後学期の評価の平均とする。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション[1]	授業の流れ、要点を理解できる。	
		2週	選択種目A[2-5]	参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。	
		3週	選択種目A[2-5]	参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。授業の終わりには、自己の活動を振り返り、気がついたこと、今後の課題などをまとめることができる。	
		4週	選択種目A[2-5]	参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。授業の終わりには、自己の活動を振り返り、気がついたこと、今後の課題などをまとめることができる。	
		5週	選択種目A[2-5]	参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。授業の終わりには、自己の活動を振り返り、気がついたこと、今後の課題などをまとめることができる。	
		6週	スポーツテスト (8種目) [6]	自己の体力水準を把握でき、仲間と協力して測定ができる。	
		7週	選択種目A [7-11]	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。	
		8週	選択種目A [7-11]	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。	
	2ndQ	9週	選択種目A [7-11]	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。	
		10週	選択種目A [7-11]	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。	
		11週	選択種目A [7-11]	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。	
		12週	水泳 (3泳法の練習) [12-13]	クロール・・・水面で肘を高く上げることができ、呼吸をうまくすることができる。 平泳ぎ・・・キックと手のかきのリズムをつかむことができる。 背泳ぎ・・・小指から入水することができ、規則正しい呼吸ができる。	
		13週	水泳 (3泳法の練習) [12-13]	クロール・・・水面で肘を高く上げることができ、呼吸をうまくすることができる。 平泳ぎ・・・キックと手のかきのリズムをつかむことができる。伸びる事ができる。 背泳ぎ・・・小指から入水することができ、規則正しい呼吸ができる。	

		14週	水泳（タイム測定）[14-15]	正しいフォームで、スピードのある泳ぎができる。
		15週	水泳（タイム測定）（遠泳）[14-15]	仲間と励まし合いながら最後まで諦めず泳ぎ切ることができる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	選択種目B[16-24]	参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。授業の終わりには、自己の活動を振り返り、気がついたこと、今後の課題などをまとめることができる。
		2週	選択種目B[16-24]	参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。授業の終わりには、自己の活動を振り返り、気がついたこと、今後の課題などをまとめることができる。
		3週	選択種目B[16-24]	参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。授業の終わりには、自己の活動を振り返り、気がついたこと、今後の課題などをまとめることができる。
		4週	選択種目B[16-24]	参考書、資料等で練習方法やポイントをつかみ、仲間と話し合いながら練習、ゲームができる。授業の終わりには、自己の活動を振り返り、気がついたこと、今後の課題などをまとめることができる。
		5週	選択種目B[16-24]	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。
		6週	選択種目B[16-24]	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。
		7週	選択種目B[16-24]	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。
		8週	選択種目B[16-24]	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。
	4thQ	9週	選択種目B[16-24]	自ら率先し、練習方法を伝えたり、ゲームの流れや段取りなどを組み立てることができる。
		10週	サッカー・バスケット（集団としての技術練習とゲーム）[25]	サッカー・・・パス相手の動きを見てボールを蹴ることができる。仲間と協力しアイデアを出しながら練習ができる。 バスケット・・・手元を見ずドリブルができる。パスからのセットシュート・レイアップシュートができる。仲間と協力し、アイデアを出しながら練習ができる。
		11週	サッカー・バスケットボール（集団としての技術練習とゲーム）[26]	サッカー・・・パス相手の動きを見てボールを蹴ることができる。仲間と協力しアイデアを出しながら練習ができる。 バスケット・・・手元を見ずドリブルができる。パスからのセットシュート・レイアップシュートができる。仲間と協力し、アイデアを出しながら練習ができる。
		12週	サッカー・バスケットゲーム（リーグ戦）[27-28]	サッカー、バスケット・・・パスからシュートへの連携プレーができる。指示を出すことができる。
		13週	サッカー・バスケットゲーム（リーグ戦）[27-28] 長距離走	サッカー、バスケット・・・集団技能を用いてゲームができる。 長距離走・・・自分のペースで走りきることができる。
		14週	サッカー・バスケットボールゲーム（リーグ戦）[29-30] ※[25-30];天候の状況によって、サッカーとバスケットを実施する。 長距離走	サッカー、バスケット・・・集団技能を用いてゲームができる。 長距離走・・・定められた距離を走りきることができる。
		15週	サッカー・バスケットボールゲーム（リーグ戦）[29-30] ※[25-30];天候の状況によって、サッカーとバスケットを実施する。 長距離走	サッカー、バスケット・・・集団技能を用いてゲームができる。 長距離走・・・定められた距離を走りきることができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	3	
			公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	

評価割合

	試験	出席	相互評価	平素の学習状況	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	50	30	0	20	0	100
基礎的能力	50	30	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	総合英語I
科目基礎情報					
科目番号	1477		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合科学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Takaichi Okuda & Anthony Allan "Writing Points! Basic Grammar for Better Writing" (金星堂)				
担当教員	ガイン デニス				
到達目標					
<p>1. 1~3年生で学んだ基本的な文法の知識を定着させて、英語で書かれた文章を読み、正しく理解することができる。</p> <p>2. 1~3年生で学んだ基本的な英文法を正しく使って、文章を書くことができる。</p> <p>3. TOEIC L&R テストの形式を学び、設問のパターン等に慣れる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 <Vocabulary>	TOEIC L&Rテストで400点以上の得点レベルの語彙力がついている。	TOEIC L&Rテストで300~390点程度の得点レベルの語彙力がついている。	TOEIC L&Rテストで250点未満の得点レベルの語彙力である。		
評価項目2 <Grammar>	TOEIC L&Rテストで400点以上の得点レベルの文法力がついている。	TOEIC L&Rテストで300~390点程度の得点レベルの文法力がついている。	TOEIC L&Rテストで250点未満の得点レベルの文法力である。		
評価項目3 <Reading>	TOEIC L&R テストで400点以上の得点レベルの英文読解力がある。	TOEIC L&Rテストで300~390点程度の得点レベルの英文読解力がある。	TOEIC L&Rテストで250点未満の得点レベルの英文読解力である。		
評価項目4 <Writing>	辞書を用いながらも、意味のある文章を書くことができ、見直した時にエラーに気づいて自分で訂正することができる。	辞書を用いながらも、意味のある文章を書くことができる。見直した時にエラーに気づくことができるが、教員が導けば訂正することができる。	辞書を用いながらも、意味のある文章を書くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>1. 3年生までに習得した文法を忘れず、今後も正しく使っていきことができるように、文法復習を中心としたreadingとwritingの練習を行う。Readingの練習の際には、ネイティブが英文を声に出して読む際の抑揚や区切りを学ぶために、listeningの練習もあわせて行う。Writingの練習の際には、教科書に書かれてある文や自分が作った文を実際に読んでみて、相手にどう伝わるのかを知るために、speakingの練習もあわせて行う。</p> <p>2. 英語コミュニケーション能力を測定するために開発されたTOEIC L&Rテストにおいて、中位レベルのスコアに到達するために、各partの問題の特徴を踏まえたListening対策、Incomplete Sentences, Text Completion, Reading Comprehension問題に必要な語彙・文法・速読を含めた包括的なReading対策を行うことで、英語力を向上させる。</p>				
授業の進め方・方法	<p>解説(講義)と演習の組み合わせにより、1年間で"Writing Points! Basic Grammar for Better Writing"を1冊こなす。その他、追加の問題練習プリント等を課し、さらなる英語運用能力の向上を促進する。</p>				
注意点	<p>試験の成績を70%、平素の学習状況等(小テスト・課題提出)を30%の割合で総合的に評価する。学期毎の評価は中間と期末の各期間の評価の平均、学年の評価は前学期と後学期の評価の平均とする。なお、後学期中間の評価は前学期中間、前学期末、後学期中間の各期間の評価の平均とする。技術者が身につけるべき専門基礎として、到達目標に対する達成度を試験等において評価する。</p> <p>※学年末の課題点(10%)は、1月に行われるTOEIC IPテスト(実力試験)の点数を参考にする。</p> <p>※教科書だけでなく、英和・和英辞書および1年生の時に購入した"Harvest"を毎回持参すること。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 授業の説明とTOEIC L&Rテストの形式と特徴の説明		
		2週	Unit 1	文法の正確な使い方を復習し、4技能を総合的に向上させ、TOEIC L&Rテストに備える。	
		3週	Unit 2	文法の正確な使い方を復習し、4技能を総合的に向上させ、TOEIC L&Rテストに備える。	
		4週	Unit 3	文法の正確な使い方を復習し、4技能を総合的に向上させ、TOEIC L&Rテストに備える。	
		5週	Unit 4	文法の正確な使い方を復習し、4技能を総合的に向上させ、TOEIC L&Rテストに備える。	
		6週	Unit 5	文法の正確な使い方を復習し、4技能を総合的に向上させ、TOEIC L&Rテストに備える。	
		7週	Unit 1~5のまとめ TOEIC L&Rテストの練習	Listening Sectionにおける写真描写問題、応答問題、会話問題、説明文問題、Reading Sectionにおける文法・語彙問題、誤文指摘問題、読解問題の特徴を学び問題演習の対処法の基本を習得する。	
		8週	前学期中間試験		
	2ndQ	9週	Unit 6	文法の正確な使い方を復習し、4技能を総合的に向上させ、TOEIC L&Rテストに備える。	
		10週	Unit 7	文法の正確な使い方を復習し、4技能を総合的に向上させ、TOEIC L&Rテストに備える。	
		11週	Unit 8	文法の正確な使い方を復習し、4技能を総合的に向上させ、TOEIC L&Rテストに備える。	
		12週	Unit 9	文法の正確な使い方を復習し、4技能を総合的に向上させ、TOEIC L&Rテストに備える。	
		13週	Unit 10	文法の正確な使い方を復習し、4技能を総合的に向上させ、TOEIC L&Rテストに備える。	
		14週	Unit 11	文法の正確な使い方を復習し、4技能を総合的に向上させ、TOEIC L&Rテストに備える。	

後期		15週	Unit 6~11のまとめ TOEIC L&Rテストの練習	Listening Sectionにおける写真描写問題, 応答問題, 会話問題, 説明文問題, Reading Sectionにおける文法・語彙問題, 誤文指摘問題, 読解問題の特徴を学び問題演習の対処法の基本を習得する。
		16週	前学期末試験	
	3rdQ	1週	Unit 12	文法の正確な使い方を復習し, 4技能を総合的に向上させ, TOEIC L&Rテストに備える。
		2週	Unit 13	文法の正確な使い方を復習し, 4技能を総合的に向上させ, TOEIC L&Rテストに備える。
		3週	Unit 14	文法の正確な使い方を復習し, 4技能を総合的に向上させ, TOEIC L&Rテストに備える。
		4週	Unit 15	文法の正確な使い方を復習し, 4技能を総合的に向上させ, TOEIC L&Rテストに備える。
		5週	Unit 16	文法の正確な使い方を復習し, 4技能を総合的に向上させ, TOEIC L&Rテストに備える。
		6週	Unit 17	文法の正確な使い方を復習し, 4技能を総合的に向上させ, TOEIC L&Rテストに備える。
		7週	Unit 12~17のまとめ TOEIC L&Rテストの練習	Listening Sectionにおける写真描写問題, 応答問題, 会話問題, 説明文問題, Reading Sectionにおける文法・語彙問題, 誤文指摘問題, 読解問題の特徴を学び問題演習の対処法の基本を習得する。
		8週	後学期中間試験	
	4thQ	9週	Unit 18	文法の正確な使い方を復習し, 4技能を総合的に向上させ, TOEIC L&Rテストに備える。
		10週	Unit 19	文法の正確な使い方を復習し, 4技能を総合的に向上させ, TOEIC L&Rテストに備える。
		11週	Unit 20	文法の正確な使い方を復習し, 4技能を総合的に向上させ, TOEIC L&Rテストに備える。
		12週	Unit 21	文法の正確な使い方を復習し, 4技能を総合的に向上させ, TOEIC L&Rテストに備える。
		13週	Unit 22	文法の正確な使い方を復習し, 4技能を総合的に向上させ, TOEIC L&Rテストに備える。
		14週	Unit 23	文法の正確な使い方を復習し, 4技能を総合的に向上させ, TOEIC L&Rテストに備える。
15週		Unit 18~23のまとめ TOEIC L&Rテストの練習	Listening Sectionにおける写真描写問題, 応答問題, 会話問題, 説明文問題, Reading Sectionにおける文法・語彙問題, 誤文指摘問題, 読解問題の特徴を学び問題演習の対処法の基本を習得する。	
16週		学年末試験		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
			明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
			中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
		英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
			英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
			英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
			関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合				
	試験	小テスト	課題	合計
総合評価割合	70	20	10	100
基礎的能力	70	20	10	100

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	法学 A		
科目基礎情報							
科目番号	1482	科目区分	一般 / 選択				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	総合科学科	対象学年	4				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	教科書 (必携) : 澤野義一・小林直三編『テキストブック憲法〔第2版〕』(法律文化社、2017年)						
担当教員	菊池 直人						
到達目標							
【到達目標】 1. 法学の基礎的な専門用語の意味を理解できる。 2. 憲法に関する基礎知識を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	法学の基礎的な専門用語の意味に関する出題について、8割以上、正解できる。	法学の基礎的な専門用語の意味に関する出題について、7割以上、正解できる。	法学の基礎的な専門用語の意味に関する出題について、6割以上、正解できる。				
評価項目2	憲法に関する基礎知識についての出題について、8割以上、正解できる。	憲法に関する基礎知識についての出題について、7割以上、正解できる。	憲法に関する基礎知識についての出題について、6割以上、正解できる。				
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標【建設工学教育プログラム】(A) JABEE (E) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(b)							
教育方法等							
概要	法学の基礎的な内容、ならびに憲法上の統治制度および基本的人権に関する基本的な内容を解説する。						
授業の進め方・方法	通常の講義形式で行います。講義内容の理解を確かめるため、質問をすることもあります。						
注意点	中間試験および学期末試験の成績の平均を80%、平素の学習状況等を20%の割合で総合的に評価します。						
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	法とは何か?	授業で説明した内容を修得する。			
		2週	法の分類とその概要	授業で説明した内容を修得する。			
		3週	憲法とは何か? (1)	授業で説明した内容を修得する。			
		4週	憲法とは何か? (2)	授業で説明した内容を修得する。			
		5週	統治制度総論 (1)	授業で説明した内容を修得する。			
		6週	統治制度総論 (2)	授業で説明した内容を修得する。			
		7週	内閣について	授業で説明した内容を修得する。			
		8週	裁判所について	授業で説明した内容を修得する。			
	2ndQ	9週	地方自治について	授業で説明した内容を修得する。			
		10週	人権総論	授業で説明した内容を修得する。			
		11週	包括的人権と平等権	授業で説明した内容を修得する。			
		12週	思想・良心の自由と信教の自由	授業で説明した内容を修得する。			
		13週	表現の自由	授業で説明した内容を修得する。			
		14週	人身の自由・生存権と環境権	授業で説明した内容を修得する。			
		15週	全体のまとめ	授業で説明した内容を修得する。			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	100%	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	法学 B		
科目基礎情報							
科目番号	1483		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	総合科学科		対象学年	4			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	教科書 (必携) : 坂東俊矢・細川幸一『18歳から考える消費者と法〔第2版〕』(法律文化社、2014年)						
担当教員	菊池 直人						
到達目標							
【到達目標】 1. 民法に関する基礎知識を身につける。 2. 消費者と法に関する基礎知識を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	民法に関する基礎知識に関する出題について、8割以上、正解できる。		民法に関する基礎知識に関する出題について、7割以上、正解できる。		民法に関する基礎知識に関する出題について、6割以上、正解できる。		
評価項目2	消費者関連法についての基礎知識に関する出題について、8割以上、正解できる。		消費者関連法についての基礎知識に関する出題について、7割以上、正解できる。		消費者関連法についての基礎知識に関する出題について、6割以上、正解できる。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標【建設工学教育プログラム】(A) JABEE (E) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(b)							
教育方法等							
概要	私法の一般法である民法、および消費者に関連する法の基礎を、契約制度を中心に解説していきます。						
授業の進め方・方法	通常の講義形式で行います。講義内容の理解を確かめるため、質問をすることもあります。						
注意点	中間試験および学期末試験の成績の平均を80%、平素の学習状況等を20%の割合で総合的に評価します。						
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標			
		1週	日常生活と法	授業で説明した内容を修得する。			
		2週	民法の基礎 (1)	授業で説明した内容を修得する。			
		3週	民法の基礎 (2)	授業で説明した内容を修得する。			
		4週	市場経済の仕組みと法	授業で説明した内容を修得する。			
		5週	消費者の権利	授業で説明した内容を修得する。			
		6週	消費者法とは何か	授業で説明した内容を修得する。			
		7週	消費者契約に関する法律の考え方	授業で説明した内容を修得する。			
	8週	未成年者と法	授業で説明した内容を修得する。				
	4thQ	9週	クーリング・オフ	授業で説明した内容を修得する。			
		10週	クレジットカードと法	授業で説明した内容を修得する。			
		11週	製造物責任法	授業で説明した内容を修得する。			
		12週	食の安全と表示	授業で説明した内容を修得する。			
		13週	消費者の役割	授業で説明した内容を修得する。			
		14週	企業の責務	授業で説明した内容を修得する。			
		15週	まとめ	授業で説明した内容を修得する。			
16週							
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史 知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	2			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	100%	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	経済学
科目基礎情報					
科目番号	1484	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合科学科	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	『F P 技能検定3級基本テキスト』 (T A C)				
担当教員	宮村 武志				
到達目標					
【到達目標】 (1) 現代経済の知識を習得して、社会に出た時に社会人として対応できる素養を身に付ける。 (2) 学生生活や卒業後の生活において金銭生活設計の礎ができる。 (3) 国際金融化が進む世の中の現状を理解し、自身の働き方や日本の社会保障制度等について主体的に考え、自らの意見を表明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	現代経済の基礎的な知識と考え方を理解し、説明することができる。	現代経済の基礎的な知識と考え方を理解する。	現代経済の基礎的な知識と考え方を理解できない。		
評価項目2	金銭生活設計の必要性を理解し、自らの計画や意見を表明した上で問題解決に向けた議論ができる。	金銭生活設計の必要性を理解し、自らの計画や意見を表明できる。	金銭生活設計の必要性が理解できず、自らの計画や意見も持たない。		
評価項目3	国際金融化が進む世の中の現状を理解し、自身の働き方や日本の社会保障制度等について主体的に考え自らの意見を表明でき、課題解決に向けた議論ができる。	国際金融化が進む世の中の現状を理解し、自身の働き方や日本の社会保障制度等について主体的に考え自らの意見を表明できる。	国際金融化が進む世の中の現状を理解できず、自身の働き方や日本の社会保障制度等について主体的に考え自らの意見を表明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標【建設工学教育プログラム】(A) JABEE (E) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(b)					
教育方法等					
概要	社会に出た時に社会人として対応できる現代経済の素養を身に付ける。 金銭生活設計ができるようになる。 国際金融化が進む世の中の現状を理解し、自身の働き方やあるべき社会保障について主体的に考え、自らの意見を表明できる。				
授業の進め方・方法	社会人として生活していくうえで経済にかかわることの基礎知識や考え方を、身近な実例をふまえて学ぶ。その際、生徒との意見交換や自発的な発表を促すとともに、生徒自らが「考える」授業内容とする。				
注意点	定期試験60%、平素の学習状況等(課題・レポート等を含む)40%の割合で総合勘案して評価する。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	本授業の目的と授業の全体像を理解する。	
		2週	パーソナルファイナンス入門 ライフプランニング (1) 経済と生活手段	経済が生活の一手段であり、そのための生涯生活設計の重要性を理解する。	
		3週	ライフプランニング (2) 生涯生活設計 プレゼンテーション	大学生からのライフプランを書き出し、創造することで、自らの将来展望を考えることができる。	
		4週	社会保障制度 (1) 社会保険	公的保障の知識を習得し、適正な保障・補償設計が必要であることを理解する。	
		5週	社会保障制度 (2) 公的年金	公的年金の知識・必要性を理解したうえで、年金制度の現状と社会における自らの役割を考える。	
		6週	タックスプランニング (1) 税の仕組み	社会人として当然知っておくべき税金の体系や税制を習得する。	
		7週	タックスプランニング (2) 税の計算・源泉所得税	申告書や源泉徴収票などの書類が実際にどのように計算されて作成されているか理解する。	
		8週	リスク管理 生命保険・損害保険	リスクに応じた公的保障と任意加入の保険の必要性を理解する。	
	2ndQ	9週	金融資産運用設計 (1) 金融経済	金融の基本的仕組み、日本銀行の役割及び国際金融化が進む中での資産運用の考え方を習得する。	
		10週	金融資産運用設計 (2) 市場・政策・債権・株式・投資信託	ライフプランの目標を達成するためには、いかに資産の適切な運用・管理が大切かを理解する。	
		11週	不動産 (1) 不動産取引	不動産についての見方・考え方、不動産の価格の決めり方や評価の方法の知識を習得する。	
		12週	不動産 (2) 不動産取引に係る法令・税	権利関係、登記、民法、借地借家法、建築基準法などの法律や関連法規の基礎知識を習得する。	
		13週	相続、事業承継 (1) 相続・贈与・遺贈・事業承継	亡くなった人の財産をどう分けるかという「民法」などの知識を習得する。	
		14週	相続、事業承継 (2) 相続・贈与に係る税	亡くなった人の財産を取得した人が負担する「相続税」や「贈与税」の知識を習得する。	
		15週	学年末試験		
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	0	100
基礎的能力	60	20	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	心理学
科目基礎情報					
科目番号	1485	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合科学科	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	参考書: 齊藤勇編『図説心理学入門[第2版]』(誠信書房)、Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology, 16e, Cengage Learning、西村義樹&野矢茂樹『言語学の教室』(中公新書)、茂木健一郎『クオリア入門』(ちくま学芸文庫)。必要に応じて資料を配布する。				
担当教員	佐々木 昌太郎				
到達目標					
1. 心理学各分野の基礎に触れる。 2. 日常生活に潜む問題に自分で気づき、考えるという力を身につける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
心理学の考え方	心理学の考え方を理解できる。	心理学の考え方を少なからず理解できる。	心理学の考え方が理解できない。		
心理学が明らかにしたメカニズム	心理学が明らかにしてきたところ>のメカニズム、およびその方法について、理解できる。	心理学が明らかにしてきたところ>のメカニズム、およびその方法について、ある程度理解できる。	心理学が明らかにしてきたところ>のメカニズム、およびその方法が、理解できない。		
実際に使われている心理学	実際に使われている心理学を指摘でき、改善を提案することができる。	実際に使われている心理学に気づくことができる。	心理学の知見が応用されていることがわからない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標【建設工学教育プログラム】(A) JABEE (E) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(b)					
教育方法等					
概要	本講義では、認知心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学といったさまざまな心理学の分野を概観する。また英語をはじめとした言葉に、モノや出来事に対する人の認知がどのように反映されているのかを学び考えることで、心理学から影響を受けた分野である認知言語学についても学ぶ。最終的には、エンジニアとして、将来的な工学と人間のこころのつながりについても考える。				
授業の進め方・方法	講義形式にて各分野の知見を提供する。 学生諸君の積極的な参加を要求する。 なお、学生諸君の興味関心、進捗等に応じて、授業の進め方が変更される可能性がある。				
注意点	関係のないことをする、話す、寝る、といった行為には、授業に参加する意思がない、と判断し、厳正に対処する。 試験の成績80%、平素の学習状況(毎回のレポート等)20%、以上の割合で総合的に評価する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション 心理学入門	心理学がどのような学問かを理解し、各分野の目的を知る。	
		2週	知覚と認知①	認知心理学の知見を得る。	
		3週	知覚と認知②	認知心理学の知見を得る。	
		4週	知覚と認知③	認知心理学の知見を得る。	
		5週	こころと言葉①	人のこころがどのように言葉に反映されているのかを学ぶ。	
		6週	こころと言葉②	人のこころがどのように言葉に反映されているのかを学び、考える。	
		7週	こころと言葉③	人のこころがどのように言葉に反映されているのかを学び、考え、発信する。	
		8週	脳と生理心理学①	心理学の視点から、脳や生理データについて考えることができる。	
	4thQ	9週	脳と生理心理学②	心理学の視点から、脳や生理データについて考えることができる。	
		10週	心理学と認知言語学	心理学と認知言語学について学ぶ。	
		11週	英語話者と日本語話者のこころ①	英語話者と日本語話者の出来事の捉え方の違いを学び、両者のこころの違いを捉える。	
		12週	英語話者と日本語話者のこころ②	英語話者と日本語話者の出来事の捉え方の違いを考える。	
		13週	メタファーとメトニミー	メタファーとメトニミーについて学び、日常的にどのような例があるかを考える。	
		14週	工学と人のこころ①	これまで学んできた人のこころと自身の専門である工学とのつながりを考える。	
		15週	工学と人のこころ②	これまで学んできた人のこころと自身の専門である工学とのつながりを考える。	
		16週	後学期末試験		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	2	
				情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	2	
				高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	平素の学修状況	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	20	0	0	100
基礎的能力	50	0	0	10	0	0	60
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	30	0	0	10	0	0	40

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	世界文化論
科目基礎情報					
科目番号	1488		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	総合科学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	ブルーノ・タウト著『ニッポン ヨーロッパ人の眼で見た』(講談社学術文庫)				
担当教員	佐々木 正寿				
到達目標					
【到達目標】					
1. 世界のさまざまな文化のあり方、そして世界のなかでの日本文化を知る。					
2. さまざまな文化圏のあいだの交流について知り、グローバル化の時代を生きる人間としての教養を身につける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	世界の地域ごとの文化を十分に理解し、説明できる。	世界の地域ごとの文化を概略的に理解し、説明できる。	世界の地域ごとの文化を断片的にのみ理解している。		
評価項目2	文化の複数性や混交性を詳細に理解し、それをもとに現代社会の課題についてさまざまな視点から論じることができる。	文化の複数性や混交性を理解し、現代社会の課題に取り組むための意見を持てる。	文化の複数性や混交性に関心を持たず、現代社会の課題について理解できない。		
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標【建設工学教育プログラム】(A) JABEE (E) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(b)					
教育方法等					
概要	テーマ: ブルーノ・タウト著『ニッポン ヨーロッパ人の眼で見た』を読む。同書を精読することを通じて、世界の中の日本文化の特質について理解を深める。				
授業の進め方・方法	グローバル化の時代にあつて、世界文化における日本文化の特性や意義についてあらためて考えてみることは、これまで以上に重要であると思われる。本講義では、戦前の日本に滞在して日本文化の理解に努め、その体験にもとづいて日本文化の一端を世界に知らしめたドイツ人建築家ブルーノ・タウトの『ニッポン ヨーロッパ人の眼で見た』を、受講生とともに読んでゆく。ドイツの知識人の眼を通して、いわば世界文化の文脈のなかで、日本文化の特徴や本質について考えてみたい。				
注意点	定期試験(前期末試験) [ca. 100%] によって評価する。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業についての説明。受講上の注意。	高等教育機関の「学生」としての受講姿勢を理解する。	
		2週	日本の近代とヨーロッパ	日本の近代とヨーロッパ文化との関わりについて理解する。	
		3週	日本の近代とヨーロッパ	日本の近代とヨーロッパ文化との関わりについて理解する。	
		4週	ブルーノ・タウト著『ニッポン ヨーロッパ人の眼で見た』を読む	文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
		5週	ブルーノ・タウト著『ニッポン ヨーロッパ人の眼で見た』を読む	文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
		6週	ブルーノ・タウト著『ニッポン ヨーロッパ人の眼で見た』を読む	文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
		7週	ブルーノ・タウト著『ニッポン ヨーロッパ人の眼で見た』を読む	文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
		8週	ブルーノ・タウト著『ニッポン ヨーロッパ人の眼で見た』を読む	文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
	2ndQ	9週	ブルーノ・タウト著『ニッポン ヨーロッパ人の眼で見た』を読む	文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
		10週	ブルーノ・タウト著『ニッポン ヨーロッパ人の眼で見た』を読む	文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
		11週	ブルーノ・タウト著『ニッポン ヨーロッパ人の眼で見た』を読む	文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
		12週	ブルーノ・タウト著『ニッポン ヨーロッパ人の眼で見た』を読む	文献を的確に読んで内容を把握し、文化的問題について理解する。	
		13週	意見交換	世界のなかでの日本文化のあり方について考察を深める。	
		14週	意見交換	世界のなかでの日本文化のあり方について考察を深める。	
		15週	(前期末試験)		
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	2	前1,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	英語特論
科目基礎情報					
科目番号	1490	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合科学科	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: アクセル英語総合問題演習 コースe 辞書: 英和辞書, 和英辞書 (電子辞書でも可) 参考書: Harvest				
担当教員					
到達目標					
【到達目標】					
1. さまざまなトピックに関する英語の文章を的確に読解することができる。					
2. 英文読解・英作文に必要な構文を習得する。					
3. 和文を英訳することができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
長文読解	300~400語で書かれた大学入試・センター試験レベルの英文について、速読による概要理解・精読による深い内容理解が90%できる。	300~400語で書かれた大学入試・センター試験レベルの英文について、速読による概要理解・精読による深い内容理解が60~70%できる。	300~400語で書かれた大学入試・センター試験レベルの英文について、速読による概要理解・精読による深い内容理解が50%もできない。		
文法	復習する文法について、正誤指摘問題や語順整序問題を90%正答することができる。	復習する文法について、正誤指摘問題や語順整序問題を60~70%正答することができる。	復習する文法について、正誤指摘問題や語順整序問題を50%も正答することができない。		
語彙	授業で扱った語彙の90%を覚え、英作文等に活かすことができる。	授業で扱った語彙の60~70%を覚え、英作文等に活かすことができる。	授業で扱った語彙の50%も覚えることができない。		
作文	適切な文法や語彙を用いて、指示された内容を正しく表現することができる。	適切な文法や語彙を用いて、指示された内容を表現することができる。エラーがあっても、指摘されれば自分で直すことができる。	適切な文法や語彙を用いて、指示された内容を表現することができない。エラーを指摘されても自分で直すことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	大学への編入学や高専専攻科への進学を目指す学生に対する特訓コースである。主に上級レベルの英語力を身に付ける学生を対象として、英文構造の正確な理解および構文把握に基づき、さまざまなトピックの英文読解に特化した集中的講義を行う。				
授業の進め方・方法	購入した教科書及び授業担当者が準備したプリントを使用して、解説を行いつつ演習形式で授業を進めていく。講義を通して、各自にとって必要な英語力(文法、構文、語彙など)を確認しながら、短期間で英文読解の速読・精度技術を上げる指導を施す。適宜、英作文や要約の指導も実施する。				
注意点	試験の成績を70%、平素の授業状況等(課題の提出・授業への積極的な参加姿勢等を含む)を30%の割合で総合的に評価する(特別課題の提出を課すこともある)。成績評価は後学期中間と学年末試験の平均とする。技術者が身につけるべき専門基礎として、到達目標に対する達成度を試験等において評価する。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Lesson1	長文読解・文法・語彙・作文能力を中心に、英語の総合的な力を向上させる。	
		2週	Lesson2	長文読解・文法・語彙・作文能力を中心に、英語の総合的な力を向上させる。	
		3週	Lesson3	長文読解・文法・語彙・作文能力を中心に、英語の総合的な力を向上させる。	
		4週	Lesson4	長文読解・文法・語彙・作文能力を中心に、英語の総合的な力を向上させる。	
		5週	Lesson5	長文読解・文法・語彙・作文能力を中心に、英語の総合的な力を向上させる。	
		6週	Lesson6	長文読解・文法・語彙・作文能力を中心に、英語の総合的な力を向上させる。	
		7週	Lesson7	長文読解・文法・語彙・作文能力を中心に、英語の総合的な力を向上させる。	
		8週	後学期中間試験		
	4thQ	9週	Lesson8	長文読解・文法・語彙・作文能力を中心に、英語の総合的な力を向上させる。	
		10週	Lesson9	長文読解・文法・語彙・作文能力を中心に、英語の総合的な力を向上させる。	
		11週	Lesson10	長文読解・文法・語彙・作文能力を中心に、英語の総合的な力を向上させる。	
		12週	Lesson11	長文読解・文法・語彙・作文能力を中心に、英語の総合的な力を向上させる。	
		13週	Lesson12	長文読解・文法・語彙・作文能力を中心に、英語の総合的な力を向上させる。	
		14週	Lesson13	長文読解・文法・語彙・作文能力を中心に、英語の総合的な力を向上させる。	
		15週	Lesson14	長文読解・文法・語彙・作文能力を中心に、英語の総合的な力を向上させる。	
		16週	学年末試験		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
			実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

			英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

評価割合

	試験	その他	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	70	30	100

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	中国語会話	
科目基礎情報						
科目番号	1491		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合科学科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 「できる・つたわる コミュニケーション中国語」(白水社) 参考書: 辞書などとあわせて、授業中に随時紹介する。*中国文化に関する資料は別途プリントなどで補充する。					
担当教員	小谷 李子					
到達目標						
【到達目標】 1. 基本文法が理解でき、教科書の文章を日本語訳できる。 2. 挨拶や買い物など日常生活でよく使われる文を聞き取れ、簡単な中国語会話ができる。 3. ピンインを見ながら、中国語の母音と子音を、正確な四声で発音できる。 4. 中国文化に慣れ親しむ。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	中国語の文章を正しく音読でき、ネイティブ発音に近付ける。	特殊な発音以外は、正しく発音できる。	小人数は、練習不足で、発音の癖が直らない。			
評価項目2	中国語の文を見て、日本語に訳すことができ、聞いて通訳できる。	日常の会話文を読み、日本語に訳すことででき、日常会話ができる。	語彙を覚えていない為、文が理解できない。			
評価項目3	簡体字、語彙を増やし、会話文を自由自在に組み立てることができる。	簡体字、語彙を増やし、会話文を組み立てることができる。	身につけた語彙が少なく、文の組み立てが自由にできない。			
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (E)						
教育方法等						
概要	昨今の社会情勢から、経済や文化など様々な分野において、中国の人々との交流がますます盛んになっていくことは明らかである。よって、現代中国語の簡体字・ピンイン(ローマ字表記)・発音・基本的な文法を習得し、中国語で簡単な日常会話が行える程度の会話能力を身につけることを目指す。また、新旧の中国文化にも触れ、異文化コミュニケーションへの礎とする。					
授業の進め方・方法	テキストの内容を中心に、講義形式で行う。発音、聞き取り、簡単な通訳は、繰り返し練習した後、グループによる発表演習を行い、翻訳、文の組み立てなどは、プリントに書き込み、提出する。提出物は毎回採点し、普段の成績とする。					
注意点	前期期末試験の成績を70%、平素の学習状況等(提出課題・小テストや授業態度等を含む)を30%の割合で総合的に評価する。技術者が身につけるべき専門基礎として、到達目標に対する達成度を試験等において評価する。					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	1. オリエンテーション: 中国語の学習の仕方、中国語という言葉の紹介 [1] 2. 発音練習 [1-15] * 中国語の発音は難解であるため、毎回声に出して発音練習を行う。 3. 中国文化紹介 [1-15] * 毎回、新旧の文化の話題に触れ、中国文化に親しむことを目指す。	ピンイン (Pinyin) の母音と子音をそれぞれ覚え、組み立て、正しく音読することができる。		
		2週	第1, 2課「肯定文・疑問文 (1)」 [2-3]	まず、基礎的な語彙 (50~80語ほど) を、発音を中心に楽しみながら覚える。簡単な文法を応用して、言葉を作り、理解する。基本の50語の中国語がある程度読めて、聞き取れる。		
		3週	第1, 2課「肯定文・疑問文 (1)」 [2-3]	語彙文法を踏まえて短文 (3語~4語で構成) を理解する。数詞をしっかりと覚え、曜日・電話番号・お金の数え方などのリスニングができる。		
		4週	第3, 4課「動詞述語文・形容詞述語文・疑問文 (2)」 [4-5]	正しい発音が身に付くよう、繰り返し発音の練習をし、簡単なリスニングができる。		
		5週	第3, 4課「動詞述語文・形容詞述語文・疑問文 (2)」 [4-5]	100~120個の語彙で、主語、述語、間接目的語、直接目的語の文が理解できる。中国語の基本的な組み立て方が理解できる。		
		6週	第1~4課のまとめ及び復習テスト [6]	中国語で相手の言葉が少し聞き取れる。(食べ物、飲み物、数字の応用、短文等々)		
		7週	第5, 6, 7, 8課「数詞・所在文・存在文」 [7-9]	時刻の言い方、所在文、存在文などを日本語に訳すことができる。		
		8週	第5, 6, 7, 8課「数詞・所在文・存在文」 [7-9]	時刻の言い方、所在文、存在文などを中国語に訳すことができる。		
	2ndQ	9週	第5, 6, 7, 8課「数詞・所在文・存在文」 [7-9]	所在文、存在文の否定文、疑問文を理解する。		
		10週	第5~8課のまとめ及び復習テスト [10]	いろんな場面を想定して、語彙を入れ替えながらの会話文作りが理解できる。		
		11週	第9, 10課「時間詞・完了形・様態補語・連動文」 [11-12]	動作が発生したことを表す文を理解し、それをふまえて、否定文、疑問文を理解する。		
		12週	第9, 10課「時間詞・完了形・様態補語・連動文」 [11-12]	5語~7語で構成される文を理解し、組み立てることができる。		
		13週	第9~10課のまとめ及び復習テスト [13]	様態補語を理解し、文を少し豊かに表現できる。		

		14週	第11, 12課「助動詞・選択疑問文」[13-14] 第11～12課のまとめ及び復習テスト[15]	助動詞、前置詞、選択疑問文などを理解し、自分の意思表現ができる。 400～500語の中国語の意味が理解できる。文語文法をふまえて日常会話を組み立てて話すことができ、聞き取れる。
		15週	期末テスト	第1～第12課の内容を中心に出题する。 リスニング・筆記・小論文など
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	中国文化論
科目基礎情報					
科目番号	1492	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合科学科	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書:「新・中国ってこんな国! -日々是変化-」(朝日出版社) 参考書:辞書などとあわせて、授業中に随時紹介する。*中国の文学作品および中国語会話に関する資料は別途プリントなどで補充する。				
担当教員	小谷 李子				
到達目標					
【到達目標】					
1. 中国の現代文化や風習を理解し、異文化の相互理解に努めることができる。					
2. 各時代の文学作品の背景にある、中国文化および思想について理解することができる。					
3. 中国語で書かれた文章(新聞や雑誌など)の概要をつかむことができる。					
4. 日常生活でよく使われる文を暗唱し、初歩的な中国語会話ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	中国に関する基本データや中国人の日常生活や感情理解のための話題に加え、中国の地域的多様性、社会事情が理解でき、様々な角度から中国をみるることができる。	広く見わたす視点からも、小さなことを観察する視点からも、中国語を理解することができる。	広範囲的に見ることができず、部分だけみて、全体を評価する傾向がある。		
評価項目2	中国に関する基本データを中国語で音読でき、意味が理解できる。	中国に関する基本データを中国語で大体音読でき(少しピンインを頼って)、意味が理解できる。	中国語の語彙、基本知識が乏しい為、中国の文化を深く理解できず、論理的に説明できない。		
評価項目3	中国文化を理解し、急速に変化しつつある中国の社会事情などについても詳しく理解できるようになる。	中国文化を理解し、急速に変化しつつある中国の社会事情などについても理解できるようになる。	先入観を持つと、より深く理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
JABEE (E)					
教育方法等					
概要	中国の人々との交流が盛んな昨今、文化的相互理解は必須である。まずは、中国の現代文化や風習にふれ、異文化を理解することの重要性を学ぶ。また、各時代の中国文学作品をもとに、中国思想の概要を理解する。一方、将来の交流も視野に入れ、初歩的な中国語会話の知識および中国語で書かれた文章の読解力を身につけることを目指す。				
授業の進め方・方法	教科書の内容と中国文学作品、最新のニュースなどをプリントして、講義形式で行う。異文化に関して、論理的かつ客観的な判断ができる力を身につける。				
注意点	前期期末試験の成績を70%、平素の学習状況等(提出課題・小テストや授業態度等を含む)を30%の割合で総合的に評価する。技術者が身につけるべき専門基礎として、到達目標に対する達成度を試験等において評価する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション: 中国文化へのいざない, 中国語という言葉の紹介[1]	中国語という言葉の紹介と、中国の最新の基本データを理解する。	
		2週	. 中国文化論 [2-15]: 教科書の教材をもとに、簡体字の読解力を身につけながら、現代中国の文化および風習への理解を深める。また、各時代の文学作品にふれることで、中国思想の概要を理解する。 3. 中国語会話 [2-15]: 難解な中国語の発音を繰り返し練習し、初歩的な会話の能力を身につけるために、基本的会話文を暗唱する。	基本的な会話文を暗唱し、難解な中国語の発音を身につける。現代中国の文化および風習への理解を深める。また、各時代の文学作品にふれることで、中国思想の概要を理解する。	
		3週	. 中国文化論 [2-15]: 教科書の教材をもとに、簡体字の読解力を身につけながら、現代中国の文化および風習への理解を深める。また、各時代の文学作品にふれることで、中国思想の概要を理解する。 3. 中国語会話 [2-15]: 難解な中国語の発音を繰り返し練習し、初歩的な会話の能力を身につけるために、基本的会話文を暗唱する。	現代中国の文化および風習への理解を深める。基本的会話文を暗唱する	
		4週	. 中国文化論 [2-15]: 教科書の教材をもとに、簡体字の読解力を身につけながら、現代中国の文化および風習への理解を深める。また、各時代の文学作品にふれることで、中国思想の概要を理解する。 3. 中国語会話 [2-15]: 難解な中国語の発音を繰り返し練習し、初歩的な会話の能力を身につけるために、基本的会話文を暗唱する。 中国語を日本語に訳すコツを少しずつ身に付けていく。	簡体字の読解力を身につけながら、現代中国の文化および風習への理解を深める。また、各時代の文学作品にふれることで、中国思想の概要を理解する。	
		5週	. 中国文化論 [2-15]: 教科書の教材をもとに、簡体字の読解力を身につけながら、現代中国の文化および風習への理解を深める。また、各時代の文学作品にふれることで、中国思想の概要を理解する。 3. 中国語会話 [2-15]: 難解な中国語の発音を繰り返し練習し、初歩的な会話の能力を身につけるために、基本的会話文を暗唱する。 中国語を日本語に訳すコツを少しずつ身に付けていく。	簡体字の読解力を身につけながら、現代中国の文化および風習への理解を深める。また、各時代の文学作品にふれることで、中国思想の概要を理解する。	

			民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
			近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
			帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
			第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
			19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	人間と科学技術
科目基礎情報					
科目番号	1523	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合科学科	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	参考書: アドルノ、ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』。その他、授業中に適宜紹介する。				
担当教員	佐々木 正寿				
到達目標					
【到達目標】 科学技術の展開と現状について歴史的かつ具体的に学ぶことを通して、科学技術と人間・社会との関係のあるべき姿について基本的な理解を得、将来「広く深い知識と温かな心をもった人間・科学技術者」としていかなる状況におかれても主体的に考え行動できるよう、然るべき力量を身に付ける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	科学技術の歴史的展開と現状の概要を、多様な視点から理解できる。	科学技術の歴史的展開と現状の概要を理解できる。	科学技術の歴史的展開と現状の概要を理解できない。		
評価項目2	科学技術と人間・社会との本来的な関わりについて、多様な観点から議論することができる。	科学技術と人間・社会との本来的な関わりについて思索することができる。	科学技術と人間・社会との本来的な関わりについて考えることができない。		
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標【建設工学教育プログラム】(A) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(a) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(b)					
教育方法等					
概要	目覚ましく発展してゆく科学技術の光と影の部分を、主体的に学生諸君とともに考え抜く。「科学・技術とは何か」を問うメタ・サイエンスとしての科学哲学をベースに、倫理学、科学技術史、環境倫理、生命倫理など多角的な視点から、「21世紀の科学技術はどうあるべきか」を考察する。				
授業の進め方・方法	(佐々木担当の場合) 主としてフランクフルト学派の思想(アドルノ、ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』)およびハイデガーの思想(『存在と時間』、『技術への問い』)を参考にして、現代における科学・技術と人間との関わり方について講義し、21世紀を生きる市民として考えるべき事項については、学生自身に主体的に思索することを求めて意見交換を行う。				
注意点	成績評価の方法: (佐々木担当) 定期試験(ca.100%)により評価する。基準: (佐々木担当) 現代社会に特有の科学技術をめぐる問題状況について深く理解しているかどうか、また、そのような問題状況に対しどのように対処すべきかについて主体的に考えようとしているかどうか、こうした点について評価する。 学年成績は、前学期と後学期の成績を平均して算出するものとする。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	(佐々木担当) 現代社会の問題状況と倫理的課題についての説明	(佐々木担当) 現代社会において科学・技術の関わる問題状況について知る。	
		2週	(佐々木担当) 現代社会の問題状況と倫理的課題についての説明	(佐々木担当) 現代社会において科学・技術の関わる問題状況について知る。	
		3週	(佐々木担当) 科学技術倫理とハイデガーの技術論との関わり	(佐々木担当) 現代においてハイデガーの技術論について知ることを意義を理解する。	
		4週	(佐々木担当) 科学技術倫理とハイデガーの技術論との関わり	(佐々木担当) 現代においてハイデガーの技術論について知ることを意義を理解する。	
		5週	(佐々木担当) ハイデガー哲学の概要	(佐々木担当) 基礎的事項としてハイデガー哲学の概要を知る。	
		6週	(佐々木担当) ハイデガー哲学の概要	(佐々木担当) 基礎的事項としてハイデガー哲学の概要を知る。	
		7週	(佐々木担当) ハイデガー哲学の概要	(佐々木担当) 基礎的事項としてハイデガー哲学の概要を知る。	
		8週	(佐々木担当) ハイデガーの技術論	(佐々木担当) ハイデガーの技術論の概要を理解する。	
	2ndQ	9週	(佐々木担当) ハイデガーの技術論	(佐々木担当) ハイデガーの技術論の概要を理解する。	
		10週	(佐々木担当) ハイデガーの技術論	(佐々木担当) ハイデガーの技術論の概要を理解する。	
		11週	(佐々木担当) ハイデガーの技術論	(佐々木担当) ハイデガーの技術論の概要を理解する。	
		12週	(佐々木担当) ハイデガーの技術論と今後の社会的課題/意見交換	(佐々木担当) ハイデガーの技術論の思索をもとに、現代社会の課題に対して主体的に考察を深める。	
		13週	(佐々木担当) ハイデガーの技術論と今後の社会的課題/意見交換	(佐々木担当) ハイデガーの技術論の思索をもとに、現代社会の課題に対して主体的に考察を深める。	
		14週	(前学期末試験)		
		15週	(答案返却)		
		16週			
後期	3rdQ	1週	(佐々木担当) フランクフルト学派の立場とその思想	(佐々木担当) 基礎的事項としてフランクフルト学派の概要を知る。	
		2週	(佐々木担当) フランクフルト学派の立場とその思想	(佐々木担当) 基礎的事項としてフランクフルト学派の概要を知る。	

4thQ	3週	(佐々木担当) アドルノ、ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』について	(佐々木担当) 基礎的事項として『啓蒙の弁証法』の概要を知る。
	4週	(佐々木担当) アドルノ、ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』について	(佐々木担当) 基礎的事項として『啓蒙の弁証法』の概要を知る。
	5週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
	6週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
	7週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
	8週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
	9週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
	10週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
	11週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読と議論	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
	12週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読にもとづく高専自己反省	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
	13週	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読にもとづく高専自己反省	(佐々木担当) 第一論文「啓蒙の概念」の精読を通して、人間と科学技術との関わりに正しく批判の眼を向ける契機を得る。
	14週	(卒業試験)	
	15週	(答案返却)	
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13
		現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3		
分野横断的能力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13	

評価割合

	その他(注意点参照)	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	80	80
専門的能力	0	0
分野横断的能力	20	20

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	総合英語II
科目基礎情報					
科目番号	1577		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合科学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: Graeme Todd, Roger Palmer, Makimi Kano著, "Express Ahead" (金星堂) 参考書: 適宜, 講義で紹介する。				
担当教員	ガイン デニス				
到達目標					
【到達目標】					
1. TOEICテストで400点以上のスコアを獲得するために必要な語彙力・文法理解力が身に付く。 2. 英語による会話や談話を聴いて内容を理解する中位レベル(TOEIC400点台)の能力が身に付く。 3. 英語で書かれた文章の情報を素早く的確に理解する中位レベル(の読解力が身に付く)。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	辞書を使いながら、自分の専門分野やそれ以外の様々なトピックの文章や英語論文を読み、その内容を詳細まで理解することができる。	辞書を使いながら、自分の専門分野やそれ以外の様々なトピックの文章や英語論文を読み、その大体的内容を理解することができる。	辞書を使いながらでも、自分の専門分野やそれ以外の様々なトピックの文章や英語論文を読み、その大体的内容を理解することができない。		
評価項目2	自分の専門分野やそれ以外の様々なトピックの会話や説明を聴き、その概要を理解することができる。	自分の専門分野やそれ以外の様々なトピックの会話や説明を何度か聴き、その概要を理解することができる。	自分の専門分野やそれ以外の様々なトピックの会話や説明を何度も聴いても、その概要を理解することができない。		
評価項目3	辞書を使いながら、自分の専門分野やそれ以外の様々なトピックについて、150語程の英文を書くことができる。	辞書を使いながら、自分の専門分野やそれ以外の様々なトピックについて、100語程の英文を書くことができる。エラーがあっても指摘されれば、すぐに書き直すことができる。	辞書を使いながらでも、自分の専門分野やそれ以外の様々なトピックについて、100語程の英文を書くことができない。エラーを指摘されても、すぐに書き直すことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1. 4年生までに習得した文法を確認しながらwritingの練習を行い、英文による表現能力を磨いていく。 2. 英語コミュニケーション能力を測定するために開発されたTOEIC L&Rテストにおいて、中位レベルのスコアに到達するために、Incomplete Sentences, Text Completion, Reading Comprehension問題に必要な語彙・文法・速読を含めた包括的なReading対策を行うことで、英語力を向上させる。 3. 教師とのインタラクティブなやり取りを通じて、基礎的なリスニングおよびスピーキングの能力を向上させる。				
授業の進め方・方法	解説を織り交ぜながら教科書の課題を中心に進めていく。その他、追加の問題練習プリント等を課し、さらなる英語運用能力の向上を促進する。				
注意点	試験の成績を70%、平素の学習状況等(課題・小テスト・レポート・iCOCET・学習態度等を含む)を30%の割合で総合的に評価する。学期毎の評価は中間と期末の各期間の評価の平均とする。学年の評価は前学期と後学期の評価の平均とする。なお、後学期中間の評価は前学期中間、前学期末、後学期中間の各期間の評価の平均とする。技術者が身につけるべき専門基礎として、到達目標に対する達成度を試験等において評価する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	文章の基本的な構造を理解する。	
		2週	Unit 1 "First Impressions"	冠詞の使い方を理解し、文章の中での的確に使うことができる。	
		3週	Unit 2 "Sparks at Fuji Rock"	可算名詞と不可算名詞の特徴を理解し、文章の中での的確に使うことができる。	
		4週	Unit 3 "A Stroke of Luck"	名詞の変則的な単数形と複数形を理解し、文章の中での的確に使うことができる。	
		5週	Unit 4 "Keeping Fit, Eating Well"	コロケーションの構造を理解し、文章の中での的確に使うことができる。	
		6週	Unit 5 "Advice to Freshmen"	比較の表現(比較級と最上級)の特徴を理解し、文章の中での的確に使うことができる。	
		7週	Unit 6 "A Cry for Help"	感情を表す形容詞の特徴を理解し、文章の中での的確に使うことができる。	
		8週	前期中間試験	Unit 1 ~ Unit 6までの内容を総括し、理解を深める。	
	2ndQ	9週	Unit 7 "Festivals"	頻度を現す福祉の特徴を理解し、文章の中での的確に使うことができる。	
		10週	Unit 8 "A Tasty and Easy Meal"	よりの的確に意思を伝えるために必要とされる語彙の選択について理解し、文章の中で語彙を的確に使うことができる。	
		11週	Unit 9 "The Tour de France"	動詞の過去形がどのような文脈で使われるのかを理解し、文章の中での的確に使うことができる。	
		12週	Unit 10 "Clean Water"	現在完了形がどのような文脈で使われるのかを理解し、文章の中での的確に使うことができる。	
		13週	Unit 11 "Women in Work"	過去形と現在完了形の使い分け方を理解し、文脈に応じてそれぞれを的確に使うことができる。	
		14週	Unit 12 "Controversy"	句動詞の特徴を理解し、文章の中での的確に使うことができる。	
		15週	前学期のまとめ	Unit 7 ~ Unit 12までの内容を総括し、理解を深める。	

		16週	学期末試験	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	
		2週	Unit 13 "The Millennial Generation"	未来形がどのような文脈で使われるのかを理解し、文章の中での的確に使うことができる。
		3週	Unit 14 "The Key to Long Life"	助動詞「can」と「could」の使い方を理解し、文章の中での的確に使うことができる。
		4週	Unit 15 "The Future of Tourism"	助動詞「may」と「might」の使い方を理解し、文章の中での的確に使うことができる。
		5週	Unit 16 "Cheaper Travel"	助動詞「should」と「must」の使い方を理解し、文章の中での的確に使うことができる。
		6週	Unit 17 "Word of the Year"	Wh-疑問文の使い方を理解し、的確な疑問文を作ることができる。
		7週	Unit 18 "Considering Others"	質問をより丁寧にする婉曲表現を理解し、的確に使うことができる。
		8週	後期中間試験	Unit 13 ~ Unit 18までの内容を総括し、理解を深める。
	4thQ	9週	Unit 19 "Healthy Grades"	「at」「on」「in」などの時と場所を表す前置詞の使い方を理解し、文章の中での的確に使うことができる。
		10週	Unit 20 "A History of the Internet"	「by」「during」「for」などの期間を表す前置詞の使い方を理解し、文章の中での的確に使うことができる。
		11週	Unit 21 "The Statistics of Safety"	「by」などの手段を表す前置詞の使い方を理解し、文章の中での的確に使うことができる。
		12週	Unit 22 "Learn from the Masters"	条件を示す「if」の使い方を理解し、文章の中での的確に使うことができる。
		13週	Unit 23 "New Technology"	関係代名詞「that」の使い方を理解し、文章の中での的確に使うことができる。
		14週	Unit 24 "Rating Professors"	理由を示す「because」の使い方を理解し、文章の中での的確に使うことができる。
		15週	後学期のまとめ	Unit 19 ~ Unit 24までの内容を総括し、理解を深める。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3		
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3		
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3		
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3		
				英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
					日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
		英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
			英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
			英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
			関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	80
専門的能力	10	0	0	0	0	10	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	数学特論	
科目基礎情報						
科目番号	1593	科目区分	一般 / 選択			
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	総合科学科	対象学年	5			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	プリント教材 教科書: 高遠節夫・斎藤齊「新 応用数学」(大日本図書)					
担当教員	八木 潤					
到達目標						
<p>【到達目標】</p> <p>1. 専攻科入学試験・大学編入学試験等の基本問題について、解答を自ら論理的に構成して、正確かつ簡潔に論述できる。具体的には、以下の既習事項の基本問題について、答案として適切な解答が書けることを到達目標とする。 空間内の図形の方程式、行列の演算、行列式、線形変換、固有値・固有ベクトル、行列の対角化、連立1次方程式、極限、導関数、増減表、接線・法線、高次導関数、媒介変数表示と導関数、不定積分・定積分、微分積分学の基本定理、図形の面積、立体の体積、偏導関数、2変数関数の極値、接平面、条件付極値問題、2重積分と累次積分、変数分離型の微分方程式、1階線形微分方程式、定係数2階線形微分方程式</p> <p>2. 複素数と複素平面に関する基本的な事項を理解する</p>						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		専攻科入学試験程度の問題が確実に解ける	専攻科入学試験程度のおおむね解ける	専攻科入学試験・大学編入学試験等の基本問題について、解答を自ら論理的に構成して、正確かつ簡潔に論述できない。		
評価項目2		複素数と複素平面について十分理解できる	複素数と複素平面についてある程度理解できる	複素数と複素平面について少しだけ理解できる		
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	前半は高知高専専攻科入学試験・大学編入学試験を念頭に、専攻科・大学編入学試験で出題された問題を中心に問題演習・解説をおこなう。後半は複素平面に関する基本的な事項を履修する。					
授業の進め方・方法	授業中に配布するプリント(主に専攻科・大学編入学試験で出題された問題)の問題を考えてもらい、その後の解説を通して知識や理解を深めていく。					
注意点	試験の成績60%、平素の学習状況(課題)を40%の割合で総合的に評価する。定期試験は中間試験および前期末試験を行う。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習	専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
		2週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習	専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
		3週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習	専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
		4週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習	専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
		5週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習	専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
		6週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習	専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
		7週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習	専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
		8週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習	専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
	2ndQ	9週	専攻科入学試験・大学編入試験のための基礎問題演習	専攻科入学試験・大学編入試験の基礎問題が解ける		
		10週	複素数の基礎(1)	複素数の基礎が理解できる		
		11週	複素数の基礎(2)	複素数の基礎が理解できる		
		12週	複素数の基礎(3)	複素数の基礎が理解できる		
		13週	複素数の基礎(4)	複素数の基礎が理解できる		
		14週	複素数の基礎(5)	複素数の基礎が理解できる		
		15週	定期試験問題の解説	試験問題が理解できる		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	簡単な場合について、順列と組合せの計算ができる。	3	
				等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
				総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11

			不定形を含むいろいろな数列の極限を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			無限等比級数等の簡単な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			平面および空間ベクトルの成分表示ができ、成分表示を利用して簡単な計算ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			問題を解くために、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる(必要に応じてベクトル方程式も扱う)。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			行列の定義を理解し、行列の和・差・スカラーとの積、行列の積を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			行列式の定義および性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			線形変換の定義を理解し、線形変換を表す行列を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			合成変換や逆変換を表す行列を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			平面内の回転に対応する線形変換を表す行列を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11

			微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			積・商の導関数の公式を用いて、導関数を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			合成関数の導関数を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			逆三角関数を理解し、逆三角関数の導関数を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			関数の増減表を書いて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			極値を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			簡単な場合について、関数の接線の方程式を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			2次の導関数を利用して、グラフの凹凸を調べることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			関数の媒介変数表示を理解し、媒介変数を利用して、その導関数を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			置換積分および部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			定積分の定義と微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11

			簡単な場合について、曲線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			簡単な場合について、曲線の長さを定積分で求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			簡単な場合について、立体の体積を定積分で求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			2変数関数の定義域を理解し、不等式やグラフで表すことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			合成関数の偏微分法を利用して、偏導関数を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			簡単な関数について、2次までの偏導関数を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			2重積分の定義を理解し、簡単な2重積分を累次積分に直して求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			極座標に変換することによって2重積分を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			2重積分を用いて、簡単な立体の体積を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			微分方程式の意味を理解し、簡単な変数分離形の微分方程式を解くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			簡単な1階線形微分方程式を解くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11
			定数係数2階斉次線形微分方程式を解くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11

評価割合

	試験	発表	相互評価	課題	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	40	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	40	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

高知工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	ドイツ語
科目基礎情報					
科目番号	1597	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合科学科	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: プーメラン・エルエー (朝日出版社) 参考書 (必携): 独和辞典 (「新アポロン独和辞典」 (同学社) など、出版社はどこのものでも可)				
担当教員	塩見 由利				
到達目標					
1. ドイツ語の文法の概要を把握する。 2. ドイツ語の簡単な会話をする力を身につける。 3. ドイツ語特有の単語の変化を理解し、辞書を使って簡単な文章が読める。 4. 英語とは異なる背景を持つドイツ語の言語文化に興味を持つ。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ドイツ語文法の概要を把握し、語彙を入れ換えて応用できる。	ドイツ語の文法の概要を把握する。	ドイツ語の文法概要が理解できていない。		
評価項目2	生活に必要な程度の語彙力が身につく。	基礎的な語彙力と挨拶表現などが身につく。	基本語彙が身につけていない。		
評価項目3	基本的文型から語彙を入れ換えて様々に作文することが出来る。	基礎的な作文力が身につく。	基礎的な作文において構造が理解が出来ていない。		
評価項目4	自学で辞書を引く、児童文学程度の文章を読解できる。	教科書の例題を辞書を引いて読解できる。	文法を理解していないため辞書を引くことが出来ない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	ほとんどの学生が英語以外の外国語を学んだことがないでしょうが、国際化が進み、英語文化圏以外の外国や文化に触れることも多くなってきています。英語以外の外国語を知ることで、視点も変わり、言語・文化に対する相対的な視野を得ることが出来ます。ヨーロッパの中央に位置し、日本とも関係の深いドイツの言葉と文化を学ぶことで新しい世界に目を向けてほしいと考えています。				
授業の進め方・方法	おおむね教科書に従って、文法説明、音読、例題、講読、口頭設問などにより授業を進める。				
注意点	試験の成績の85%、平素の学習状況等 (課題・小テスト・レポートを含む) を15%の割合で総合的に評価する。学期毎の評価は中間と期末の各期間の評価の平均、学年の評価は前学期と後学期の評価の平均とする。なお、通年科目における後学期中間の評価は前学期中間、前学期末、後学期中間の各期間の評価の平均とする。到達目標に対する達成度を試験等において評価する。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス説明、基本挨拶表現、アルファバート、発音の規則	基本の挨拶とアルファバートを覚え、発音の規則を理解する。	
		2週	人称代名詞、規則動詞の現在人称変化	人称代名詞を覚え、規則動詞の現在人称変化を理解する。	
		3週	語順、ja,neinの使い方、haben とsein動詞	ドイツ語特有の語順の規則を理解し、habenとsein動詞の活用を覚える。	
		4週	名詞の性、定冠詞と不定冠詞、複数形	名詞に性があることを理解し、定冠詞と不定冠詞のかたちを覚える。複数形の作り方を理解する。	
		5週	名詞の格の用法	定冠詞、不定冠詞の格変化表を覚え、格の用法を理解する。	
		6週	名詞の格の用法	様々な格の名詞の入った文章を読み、作文する。	
		7週	不規則変化動詞 (1)	基礎的な不規則変化動詞の変化表を覚え、作文する。	
		8週	前期中間試験	教科書2課までの内容を理解する。	
	2ndQ	9週	不規則変化動詞 (2)	基本的な不規則変化動詞の変化表を覚え、作文する。	
		10週	命令形	命令形の3つのかたちを理解し、作文する。	
		11週	定冠詞類	定冠詞類の格変化を理解し、様々な定冠詞類を覚える。	
		12週	不定冠詞類	不定冠詞類の格変化を理解し、様々な不定冠詞類を覚える。	
		13週	指示代名詞、疑問代名詞	指示代名詞、疑問代名詞を理解し覚える。	
		14週	人称代名詞	人称代名詞の3格、4格を覚える。	
		15週	前置詞の格支配	様々な前置詞を覚え、格支配を理解して読解、作文する。	
		16週	前期末試験	3～5課の内容を理解する。	
後期	3rdQ	1週	話法の助動詞、未来形	助動詞の意味と人称活用、助動詞構文を理解し、読解作文できる	
		2週	従属接続詞と副文	副文構造を理解し、基本的な従属接続詞を覚え、副文を含む文章を読解作文できる。	
		3週	分離動詞	分離動詞の使い方を理解し、基本的な文章を読解作文できる。	
		4週	再帰動詞	再帰動詞の特性を理解し、基本的な文章を読解作文できる。	
		5週	非人称代名詞es	非人称代名詞esを含む基本的な文章を理解する。	

4thQ	6週	形容詞の格変化	形容詞の格変化を理解し、表を見ながら文章を読解作文できる。
	7週	形容詞の格変化、形容詞の名詞化	形容詞の格変化表を見ながら文章を読解作文できる。形容詞の名詞化を理解し読解できる。
	8週	後期中間試験	6～7課の内容を理解する。
	9週	動詞の3基本形	動詞の3基本形を理解し、基本的名不規則変化動詞の3基本形を覚える。
	10週	過去形	過去形の文章の作り方を理解し、基本的な文章を読解作文できる。
	11週	現在完了形	現在完了形の作り方を理解し、基本的な文章を読解作文できる。
	12週	定関係代名詞	定関係代名詞のかたちと使い方を覚える。それを含む文章を読解作文できる。
	13週	不定関係代名詞	不定関係代名詞のかたちと使い方を覚える。それを含む文章を読解作文できる。
	14週	比較級、最上級	形容詞・副詞の比較級、最上級の作り方、使い方を理解し、それを含む文章を読解作文できる。
	15週	補足文法	現在分詞、zu不定詞の概要を理解し、簡単な文章を読む。
16週	学年末試験	8～10課の内容を理解する。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	85	0	0	0	0	15	100
基礎的能力	85	0	0	0	0	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0